報告

エコツアー：株式会社浜田 PV リサイクルセンター見学

金本　龍平 (2025 年度インターン生)

11 月 28 日、今年のエコツアーは、京都府八幡市にある株式会社浜田 PV リサイクルセンターの見学を行いました。当日は東京や関西方面の会員さん 8 名と環境文明 21 事務局、そして私を含めた併せて 12 人で見学させていただきました。最初に（株）浜田の方から会社の概要についての説明を受けた後、太陽光パネルリサイクル施設や、併設されたスクラップ工場の見学をするという流れでした。

私自身、「株式会社浜田」と言う会社をよく知りませんでしたが、太陽光パネルを中心に、様々なリサイクル技術を開発していることが分かりました。最近では処分が難しいとされる紙おむつのリサイクルにも挑戦していることもわかり、今後のリサイクル業界にますます必要とされる会社であると感じました。

私は中学校の社会科の授業で、ごみの分別やリサイクルについて学び、そこで太陽光パネルは処分が難しく、リサイクル率もそれほど高くないと教わりました。しかし、実際に工場を見学してみると、太陽光パネルを粉砕・選別システムで物質の色や性質ごとに細かく分けられ、特に希少金属である銀もとれると知り、技術力の高さを実感しました。

実際にリサイクル過程の外観図を見ても、埋め立て処分に回されている項目は少なく、リサイクル効率の水準が極めて高い印象を受けました。さらに、リサイクル過程で有害物質の排出が抑えられており、環境面でも配慮されていることもわかりました。

しかし、その分コストがかかる印象を受けました。実際に太陽光パネルの年間処分量に対して、こうしたリサイクルを行っている工場は全国的にも少なく、処分に回す輸送費用が非常にかかると感じました。また、これほどの精密な機械を毎日稼働しているとなると、電力の消費や人件費もかかり、運用コストを賄うのはとても難しい気がしました。太陽光パネルの寿命は約 20 年から 30 年と言われており、再生可能エネルギーの普及が進むこれからの時代にさらに処分量が増えていくことが予想され、今後、より効率的な運用システムの構築が求められると思われます。

また、工場の中には大量に未使用で処分されたソーラーパネルも置かれていました。一見老朽化されておらず、まだまだ使えそうな印象があったので、もっと有効活用できる仕組みを整えるべきであると思いました。実際に、「株式会社浜田」では、建設会社などとも連携し、建設現場の仮設ハウスにソーラーパネルを設置するなどし、老朽化したソーラーパネルをリユースする取組があることも知りました。このように外部との連携をより強化することで、社会全体でリユースや持続可能性の意識が高められるので、とてもいい取組だと感じました。

エコツアーでは、私自身、こうした最先端のリサイクル技術の一端に触れることや、「株式会社浜田」の取組について知ることができ、とても有意義な経験でした。